

「数学スタディーズSL」 評価目標

授業・試験用

2014年 第1回試験

評価目標

型どおりでない問題やオープンエンドの問題、現実世界の問題を含む問題解決は、数学の学習の中心であり、広い範囲の状況における数学的な技能や概念を習得することにもつながります。DPの「数学スタディーズSL」を履修した生徒は、以下の各項目についてその習熟度を具体的に示すことが求められます。

1. **知識と理解**：自分にとってなじみがあるかないかを問わず、さまざまな文脈の中で、数学に関する事実や概念、手法を頭に思い浮かべ、適切なものを選び、活用する。
2. **問題解決**：現実的な文脈および抽象的な文脈の中で、問題を解決するために、数学の技能や結果、モデルに関する知識を思い浮かべ、適切なものを選び、活用する。
3. **コミュニケーションと解釈**：一般的な現実の文脈を数学の文脈に置き換え、その文脈を説明し、紙と鉛筆またはテクノロジーを使って数学的な図式やグラフを描いたり、略図にしたり、作図したりして、解法、解答、および結論を標準化された表記法を用いて記録する。
4. **テクノロジー**：新しいアイデアを探究したり、問題を解決したりするために、テクノロジーを正確に、適切に、かつ効果的に使用する。
5. **推論**：正確な記述、論理的な演繹および推理の使用を通じて、数式の演算によって数学的議論を構成する。
6. **調査的アプローチ**：それまで自分にあまりなじみのなかった状況について、情報や測量を整理して分析し、結論を導き、その妥当性を検証し、その範囲と限界を考慮に入れながら調査を行う。

評価目標の配点比率

評価目標	ペーパー 試験問題1 %	ペーパー 試験問題2 %	プロジェクト %	全体 %
知識と理解	20～30	20～30	5～15	15～30
問題解決	20～30	20～30	5～15	15～30
コミュニケーションと解釈	15～25	15～25	15～25	15～25
テクノロジー	5～10	5～10	5～15	10～20
推論	5～15	5～15	5～15	5～15
調査的アプローチ	0～10	0～10	35～45	10～20